

最近の活動



会派「創誠会」にて宮崎県視察 ●平成23年2月

寺越和洋副議長就任を祝う会



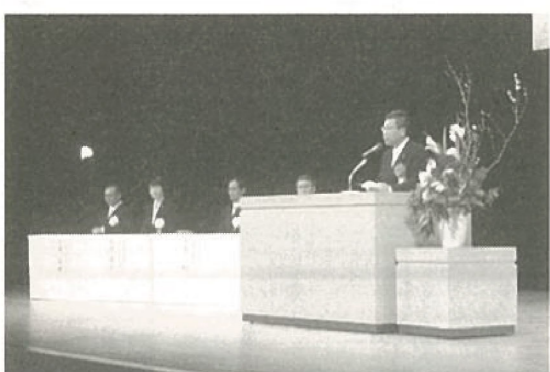
副議長就任祝賀会 ●平成23年7月



スポレクつるぎ2011 ●平成23年9月



中国りつ陽市にて姉妹都市交流事業 ●平成23年10月



成人式(鶴来地域) ●平成24年1月



スポーツつるぎ年頭のつどい ●平成24年1月

平成24年 3月議会 一番質問

○企業誘致に対する市長のトップセールスの考え方を問う。

質問 工業団地への立地に関心を示している企業が21社ある、その企業へのトップセールスの現状と、企業進出の可能性は。

市長 数社にアプローチを行っている。東京事務所を開設し、都市圏での誘致活動をする。

質問 市長自ら企業誘致のトップセールスを行っているのか。

市長 企業関係者と懇談の折には、立地条件の良さをPRしている。

質問 企業誘致に対する市長の意気込みと哲学は。

市長 重要な施策の一つで、積極的に企業誘致に取り組む。

○「白山路サイクルフェスタ2012」大会を充実せよ。

質問 ジオパークをテーマに、観光情報発信の大会とせよ。

桶屋副市長 手取キャニオンロードは、ジオスポットの連続のコースで、白山手取川ジオパークを生かした観光情報を発信して行く。

質問 健康福祉部より観光部門で、企画すべきである。

桶屋副市長 観光推進部の強力なバックアップにより、この事業を推進していく。また、骨太のイベントとしたい。

質問 サイクリングルート整備のため、市役所内に会議を立ち上げよ。

桶屋副市長 会議を立ち上げ、ソフト・ハード両面から事業の推進を検討し、健康増進・観光発信・地元活性化など取り組む。

○作野市長の市政懇談会

質問 中学生や若い世代との懇談会を通じて、予算計上は何か。今年の懇談会の予定は。

各地域で、市民と意見交換を行った中で、予算に計上したものや、今後、検討している施策は、何か。

市長 小中学校に、扇風機を設置する。社会人を対象として、年2回開催予定。各種団体から市政報告会の依頼があり、できる限り答えていく。予算計上は、無いが、いろいろ提言を受け参考とし、合併特例債を活用しながら、市民の要望に答えていく。

てらこし和洋のプロフィール

昭和33年3月4日生まれ
 昭和48年3月 白山市立鶴来中学校卒業
 昭和51年3月 県立金沢錦丘高等学校卒業
 昭和55年3月 神奈川大学経済学科卒業
 平成7年4月～ 旧鶴来町議会議員
 平成17年3月～ 白山市議会議員

主な役職

白山市サッカー協会会長
 白山市相撲連盟会長
 石川県サッカー振興議員連盟会員
 クレイングラウンドゴルフクラブ会長

てらこし和洋後援会事務所

てらこし かずひろ
 白山市議会議員 寺越 和洋 後援会事務所
 〒920-2146 白山市日向町和110番地
 TEL・FAX 076-272-2789
 ●E-mail terakos@asagaotv.ne.jp
 ●メールアドレス terakoshikazu@docomo.ne.jp

てらこし和洋

白山市議会通信



2012年 春号

春爛漫の平成24年度の新年度を迎えました。皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年3月の市議会定例会におきまして議員各位のご推挙により、第7代の白山市議会副議長の要職を賜り、先の3月議会定例会の最終日に副議長職を退任することとなりました。

この一年、大過なく副議長職を、務めさせていただきました。これひとえに、日頃よりご支援賜っております、皆様方のおかげであり、心より深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、振りかえりますと、昨年、会派で視察に行った新燃岳の噴火から始まった年であり、ニュージーランドの地震、そして、3・11の東日本大震災、福島県の原子力発電所の事故対応からの議会運営のスタートでありました。

その後、新潟県を始めとした集中豪雨、紀伊半島の台風12号、15号など災害列島と言われるような自然災害の多い年であり、心を痛めました。

さらに、10月に、作野市長と一緒に姉妹都市であります中国・りつ陽市への訪問時に、能美市におけるF15タンク落下事故の報告を受けての議会の対応にも神経を使いました。

改めて、市民に皆様の生命財産を守るべく、安心安全のまちづくりの必要性を意識した年でありました。

そして、県内の市町で初めての議会基本条例制定以来、また、議会だよりの毎日新聞社の表彰より、議会の視察受け入れが増え、他議会との意見交換に、多忙を極めました。

さて、白山市は、作野市長が実質的に始めてといえる予算編成をおこない、平成24年度が、

スタートしました、今後の白山市の財政運営が厳しくなる中、さらに責任の重さに緊張しながら身の引き締まる思いをいたしているところでもあります。

今後さらに、国の財政運営や地方財政への影響が懸念される中、私自身、住民の生活福祉の確保に、責任をもって邁進する所存であります。

その中で、議会としても、議員定数を、現行の28人から、21人に減らし、来年の選挙より行います。これも、行財政改革の一つでありまして、私自身も非常に厳しいわけではありますが、熱い思いをもって訴えて行きたいと思っております。

また、白山市誕生から市民の一体感と融和にお手伝いしてきましたが、まだまだ、不協和音や、もの足りない事もあると思っています。副議長職を去るにあたり、これからは一議員として、この1年間の貴重な経験を生かし、世界に誇れる白山市となるよう、さらなる夢と希望と安心のため、愛情と責任と情熱で全力を注ぐ所存であり、市民の視線を忘れることなく、市政の発展に寄与していきますので、今後とも叱咤激励して戴き、ご指導ご鞭撻を、心からお願い申し上げます、皆様のご多幸を祈念いたします。

